



2022年 4月12日  
第181号

# JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



## 東日本大震災被災地現地踏査を開催

横浜地本執行部と青年部は、東日本大震災にて甚大な被害を受けた地域の現地踏査を行いました。東日本大震災発生直後から JR 東労組は被災地域でのボランティア活動などを行ってきました。11年経った今、被災地の現実を知り私たちの働き方や鉄道の在り方を考え、どのような社会を目指していくべきなのか仲間と議論していきます。



旧野蒜駅は東松島市震災復興伝承館として、津波の恐ろしさや安全について学ぶ場所となっている。

帰還困難区域に近い常磐自動車道では、放射線量の表示が所々に設置されている。



2020年3月に全線開通した常磐線の大野駅前。真新しい駅舎とは対照的に、駅前の公園は草が生い茂り、誰もいない中で桜だけが綺麗に咲いていた。駅構内には現在の放射線量の表示もあった。

74名の児童が津波の犠牲になった大川小学校。震災遺構として整備され、命を守れなかった事実を伝えている。

東京電力廃炉資料館や東日本大震災・原子力災害伝承館にも訪れ、原発事故被害についても学びました。

今後も仲間と共に現地踏査を行い、命を最大の価値基軸とし、「抵抗とヒューマニズム」の精神を育んでいきます。

